

研究種目：若手研究（B）
研究期間：平成19年度～平成22年度
課題番号：19720053
研究課題名（和文） 中世王朝物語の引用和歌典拠総覧作成とテキスト処理による
物語内引歌表現検索の研究
研究課題名（英文） A Study on finding the quotes in the pseudo classical *Monogatari*
works written in the medieval ages
研究代表者
安道 百合子（ANDOU YURIKO）
梅光学院大学・文学部・講師
研究者番号：00441577

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：中世王朝物語・引歌・検索

1. 研究計画の概要

- (1) 中世王朝物語の創作基盤を明らかにすることを目的とする。創作基盤とは、前時代・同時代において物語創作に影響を与えた文学作品のすべてであり、これを明らかにすることにより、中世における物語創作の状況や作者層の検討にいたる手がかりを得ることが期待できる。その方法として、テキスト処理の手法を取り入れ、網羅的に結果を公開することを目指す。具体的には、以下の手順を踏まえる。
- (2) 『鎌倉時代物語集成』（笠間書院）第一巻～第七巻に収められる中世王朝物語の作品本文をすべて入力してテキストデータとする。
- (3) そのうち、作中和歌については、データを仮名に標準化し、さらに各句区切りのデータを作成する。そのデータと、新編国歌大観所収の和歌（約40万首）データとを比較し、類似歌を抽出する。そのなかから、本歌の認定・参考和歌の選定と認定を行い、それらの和歌の典拠調査を行なう。なお、和歌比較方法には、連続する2音を1つの単位として、音数一致の度合いを基準とする類似歌抽出の方法を用いる。
- (4) 物語本文については、漢字の頻度、仮名遣いの不一致の頻度を見極める。その結果を鑑みて、テキスト標準化の方向を見定める。
- (5) 本文データと新編国歌大観所収和歌との比較、また、本文データと『源氏物語』・『狭衣物語』本文データとの比較を行う。比較方法を変えて、引歌表現、物語取り表現などの検索に適した抽出方法を見出す。比較に用いるデータには、本文から網羅的

に取り出した短い文字列データを使う。一定文字ずつずらして、40文字区切りの文字列を作り、和歌との比較がしやすい短文データとする。

- (6) 以上の工程を経て、引用和歌典拠総覧を作成する。また、従来にない引歌などの指摘事項を検討し、中世王朝物語相互の関係にも考察を及ぼすことを目指したい。

2. 研究の進捗状況

- (1) 作中和歌の本歌・参考歌典拠総覧作成について
 - ① 作中和歌の類歌抽出を行なった結果、コンピュータによる抽出結果は、従来の基礎研究にくらべて、和歌の時代性や傾向をとらえるのに有効であると考えられるに至った。
 - ② 基礎調査を行う際の思い込みを排除できることや、典拠一覧を作成できることにも利点があることがわかった。
 - ③ 本歌・参考歌の典拠総覧作成にむけて、抽出結果の検討、既出版研究成果との検証などを続けているところである。
- (2) テキスト処理による引歌表現検索の研究について
 - ① 『あきぎり』などを例として、具体的に、有効な抽出方法を見定めた。
 - ② 物語本文をある程度標準化すると、連続する3音を一つの単位として音数一致をはかる方法で、引歌表現を指摘できる場合がある。ただし、一句もしくは5音～7音程度の語句引用の場合は、この方法では不可能で、先行する物語本文との比較を組み合わせた場合に有効であるこ

とがわかった。

- ③この方法を模索する過程で、物語相互比較の方法を組み合わせると、引歌を手がかりにして物語相互の影響関係に踏み込める可能性があることがわかった。ただし、データの処理に検討が追いつかず、従来の成果以上の成果に至るかどうかはいまだわからない。

3. 現在までの達成度

- ③やや遅れている。

(理由)

作中和歌については、基礎データ作成と、比較抽出は予定通り行なうことができたが、その検討に予想以上に時間がかかった。参考和歌の確定の難しさが一因である。アルバイトには、学部学生の協力を得たが、学部学生には、かなり高度な作業となることに加えて、学生も就職活動などで忙しく、毎年、アルバイト学生が変わるなどの理由により、想定していたアルバイト作業の半分程度しかできなかった。まだ、既出版の研究成果との照合は終わっていない。

引歌については、とくに3年目の段階で、有効な音数一致の度合いを見定めるのに時間がかかった。

全体的に、コンピュータによる基礎作業は比較的順調であるが、研究者本人の考察にかかる時間の見通しがやや甘かったためと思われる。

4. 今後の研究の推進方策

基礎データの作成については、鋭意、継続するつもりである。

参考歌認定と一覧公開については、研究者本人の認定・考察を経た成果のみを公開するのではなく、数値的に整理をして公開する方法も検討したい。和歌の時代性や傾向をたどるには、有効であろうと思われるからである。

本研究の最終目的は、中世王朝物語それぞれの創作基盤にせまることにあり、それは、作者圏にせまることでもあるが、研究期間があと1年足らずとなった現時点では、これまでのデータを整理し、その先の研究に利用できる形での公開をまずは目指すことにして、鋭意進めていくこととした。

大学の現状が忙しすぎることも研究の進捗が遅れている一因ではあるが、これは一研究者としては、方策のとりようがない。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 安道百合子、「コンピュータは引用表現を探せるか—中世物語『あきぎり』における類歌検索および引用表現検索の試みを通して—」、梅光学院大学 論集、第43号、32-42頁、2010年発行、査読有
- ② 安道百合子、「『小夜衣』の和歌表現—2音1因子方式による類歌抽出結果の検討を通して—」、梅光学院大学 論集、第41号、67-77頁、2008年発行、査読有

〔学会発表〕(計2件)

- ① 安道百合子、「コンピュータは引歌表現を探せるか—『あきぎり』の場合—」、広島国語国文学会、2009年11月22日、広島大学
- ② 安道百合子、「『首書源氏物語』桐壺巻における先行註釈の引用態度について—梅光本源氏物語書き入れ注を視野に入れつつ—」、梅光学院大学日本文学会、2009年7月11日、梅光学院大学

〔図書〕(計1件)

- ① 中村康夫・安道百合子、和泉書院、「文系のための情報処理入門—パソコンを活用して研究を進めよう—」、2008年発行、総ページ数99頁(全体にわたって執筆)